

## 構成的グループ・エンカウンターによる感情面の効果測定尺度「ファンタジー尺度」作成の試み

岩田将英

(千葉県柏市立柏第一小学校)

平宮正志

(文教大学・二松學舎大学)

## 問題と目的

今日、学校現場において構成的グループ・エンカウンター(以下、SGE)が広まり、様々な効果が報告されている。しかし、SGEで最も重要ともいえる感情面(SGEの源流がゲシュタルト療法であるため)の変容そのものについて測定するためには、専門的な心理検査を用いなければ測定できず、現場の教師が用いることは困難である。したがって、SGEの効果の重要な要素である感情面を測定できる、現場の教師が使用可能な質問紙形式の尺度の作成(信頼性と妥当性の検証を含む)を行い(目的1)、あわせて、感情面に焦点を当てたエクササイズ(以下、Ex)「ファンタジー・好きなどころ」の有効性を検証する(目的2)。

## 方法と対象

対象者:【予備調査】A小学校3年生~6年生 児童681名(男子364名,女子317名;3年生180名,4年生182名,5年生152名,6年生167名)【本調査】同校4年生 児童183名(男子103名,女子80名)

調査時期:【予備調査】2009年2月~3月。【本調査】事前調査:2009年2月,事後調査:2009年2月。

方法:【予備調査(質問紙の作成)】;平宮(2007)から16個の質問項目「ファンタジー尺度」を作成し、併存的妥当性を検討するために「リラックス感尺度」(小池ら,2007)15項目(「気分M」因子、「緊張T」因子、「身体感覚S」因子より構成)、「豊かな感情体験尺度」(中田,2006)の「感情に対する尊重性」因子7項目を合わせた合計38項目からなる4件法の質問紙を作成した。

【本調査(尺度の信頼性・妥当性の検討およびExの有効性の検証)】実施Ex:伊東・河津(1982)「ファンタジー・好きなどころ」(以下、Ex.「好きなどころ」)を参考に、喜多郎作「シルクロード」という曲を、横になり目を閉じているときに流し始めるとともに、音楽を聴きながら自分の好きなどころを想像する。さらには目を開けた後、想像したものを各自、クレヨンで画用紙に描くと同時に、他児童の作品を鑑賞するというものである。

## 結果

## 1. 予備調査の結果

主因子法・プロマックス回転による因子分析を行った結果、明確な2つの因子が得られ、累積寄与率は43.66%であった。

第1因子は10項目から構成され、個人の内的な活動を中心とする内容の項目が高い正の負荷量を示していたので、「空想」因子と命名した( $r = .81$ )。第2因子は6項目から構成され、肯定的な感情や緊張感の解放に関わる内容の項目

が高い正の負荷量を示していたので、「リラックス」因子と命名した( $r = .81$ )。また他尺度との相関として、第1因子の「空想」因子が「気分M」因子・「身体感覚S」因子・「感情に対する尊重性」因子と0.1%水準で有意な正の相関が見られ、さらに第2因子の「リラックス」因子においては、「気分M」因子・「緊張T」因子・「身体感覚S」因子・「感情に対する尊重性」因子と0.1%水準で有意な正の相関が見られた。

## 2. 本調査の結果

予備調査で作成されたファンタジー尺度を用いて、事前と事後の比較を統計的に検討したところ、「空想」因子、「リラックス」因子とも事後の得点の方が有意に高かった( $t(170)=7.45, p<.001$ ;  $t(176)=4.23, p<.001$ )。妥当性を検討するための他尺度、「リラックス感尺度」の「気分M」因子( $t(177)=3.03, p<.01$ )、「緊張T」因子( $t(170)=2.02, p<.05$ )、「身体感覚S」因子( $t(176)=4.33, p<.001$ )、「豊かな感情体験尺度」の「感情に対する尊重性」因子( $t(170)=4.01, p<.001$ )においても同様であった。

## 考察

## 1. 「ファンタジー尺度」作成に関する考察

予備調査の結果より、「ファンタジー尺度」は2つの因子(「空想」因子、「リラックス」因子)より構成されていることがわかった。なお信頼性係数は、「空想」因子が $r = .81$ 、「リラックス」因子が $r = .81$ であった。また「空想」因子は、「気分M」因子・「身体感覚S」因子・「感情に対する尊重性」因子と0.1%水準で有意な正の相関、さらに第2因子の「リラックス」因子においては、「気分M」因子・「緊張T」因子・「身体感覚S」因子・「感情に対する尊重性」因子と0.1%水準で有意な正の相関があり、「ファンタジー尺度」の併存的妥当性が確認された。

## 2. Ex. 「好きなどころ」に関する考察

Ex. 「好きなどころ」実施前後において、「空想」因子および「リラックス」因子の2つの因子が有意に変化していた。さらには「気分M」因子・「緊張T」因子・「身体感覚S」因子・「感情に対する尊重性」因子の4つの因子が有意に変化していた。以上の結果を通して、Ex. 「好きなどころ」実施の有効性が検証された。なお今回の結果となった要因としては、以下の効果が推察された。

横になり目を閉じ音楽を聴く等によるリラックス効果  
想像したものをクレヨンで描くことによる自己表現効果  
描いた作品を周りから鑑賞してもらうことによる承認効果

キーワード:構成的グループ・エンカウンター,尺度作成,エクササイズ「ファンタジー・好きなどころ」